

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府羽曳野市第2期中層・高層住宅 (建て替え)新築工事(G号棟)	階数	地上5F
建設地	大阪府羽曳野市	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、法22条区域	平均居住人員	95人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年10月1日
敷地面積	2,703 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社上坂設計
建築面積	616 m <sup>2</sup>	確認日	2020年10月1日
延床面積	2,542 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社上坂設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p>	<p>標準計算</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>配置計画や外構計画により、既設住宅との統一感・連続性に配慮する。道路沿いには緑地帯を設け、空地には植栽を充実させる。府営住宅として、安全性・経済性を重視した良質な住環境を創出する。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>バリアフリー法の移動円滑化基準を満たし、車いす利用者にとっても利用しやすい計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>バリアフリー法の移動円滑化基準を満たし、車いす利用者にとっても利用しやすい計画とした。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>死角のない配置計画とし安全性に配慮した。先行の第1期住棟と調和した外観計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>各住戸に自然採光、自然通風を確保した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>床フローリング下地のパーティクルボードについてリサイクル材を使用する。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地内は、透水性インターロッキング舗装の採用と雨水貯留槽の設置により、都市公園抑制を図る。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0093

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪府営羽曳野古市第2期中層・高層住宅(建て替え)新築工事(5号棟)						
	建設地	大阪府羽曳野市古市						
	用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.6	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				4.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.0	3	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.2	3	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	○	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							